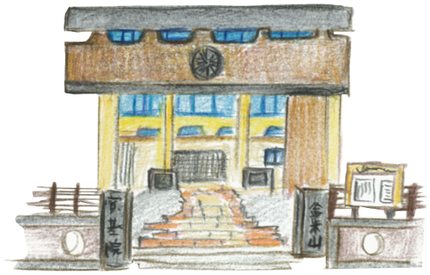
＼「新一万円札」肖像の ／
渋沢栄一の足跡をたどる

しぞーか町歩きMAP

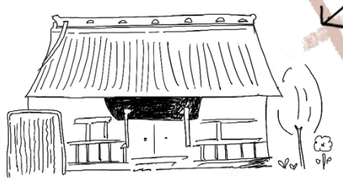
渋沢栄一は「日本近代資本主義の父」といわれ、数多くの企業を立ち上げただけではなく、慈善事業・社会貢献と民間外交に尽力した功績で知られています。静岡はその輝かしいキャリアの第一歩を残した町です。その足跡を歩いてみましょう。

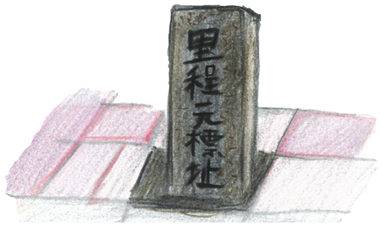
静岡県公立大学法人
静岡県立大学
UNIVERSITY OF SHIZUOKA



A 渋沢栄一、徳川慶喜との涙の再会
宝台院

徳川慶喜が慶応４年（1868 年）７月から謹慎が解かれる翌明治２年９月まで謹慎していた寺。明治元年 12 月下旬、慶喜はパリ万博から帰国した渋沢（篤太夫）を出迎えました。渋沢の欧州での見聞に耳を傾け、慶喜は静岡に残るよう要請しました。


焼失前の
宝台院



D 豪商が軒を並べた呉服町
里程元標跡

渋沢は当初呉服町の下駄屋の二階に下宿、駿府藩豪商が軒を 並べる一角から紺屋町まで通ったとされます。「商法会所」設立にあたり駿府（静岡）藩の豪商の出資協力が不可欠、実質的な運営は豪商たち自身の手に委ねられました。頭取渋沢は全体の舵取りを行い、人的ネットワークを活かした情報入手と分析にリーダーシップを発揮しました。

Insta映えスポット

- 宝台院前
- 浮月楼門前
- 呉服町通り
- 青葉シンボルロードの並木
- 札の辻

E 常平倉、静岡藩時代最後の足跡
教覚寺

明治２年９月以降、現浮月楼に慶喜が引越す際「商法会所」を改組した「常平倉」がここに設置されました。商業振興に加え米穀の安定供給の業務を兼ねました。同時に静岡を離れる 11 月まで渋沢は妻子を呼び寄せ、ここに居住したのでした。

B 渋沢栄一、企業家への第一歩
浮月楼

もと駿府藩代官役所。明治２年１月政府から割り当てられた資金と豪商・豪農による出資を元手にした銀行兼総合商社「商法会所」をここに設立。他地域から買い付けた米を藩内で販売し、茶・漆器といった藩内の物産を他地域に販売する商社機能と、商品を担保に商人に資金を貸し出す銀行機能を兼ねました。牧之原茶業開拓や養蚕業の振興といった経済活性化策がここから生まれたのです。

C 謹慎後の慶喜住居
「徳川慶喜公屋敷跡」石柱

商法会所が「常平倉」と改称・移転し、徳川慶喜は謹慎解除後の 1869（明治２）年９月から 1888（明治 21）年までここに居住します。東京へ移って後の渋沢は、かつての主君であった慶喜の見舞いに時折訪問しました。渋沢は 1893（明治 26）年には慶喜の汚名をそそぐため『徳川慶喜公伝』を企画し 25 年の歳月をかけて完成させました。

column
静岡と渋沢栄一とのゆかり

photo credit to 渋沢栄一記念財団

28 歳の時、大政奉還後にパリ万博から帰国してすぐの明治元年 12 月から 11 か月のあいだ、徳川慶喜公に請われ藩政立て直しのため「商法会所」（現在の浮月楼）を設立するなど静岡の商業発展に尽力し静岡復興に貢献しました。

さらに詳しい案内を
Google map にて公開中

●メモ

制作：静岡県立大学「地(知)の拠点事業」
地域づくりワーキンググループ(２０２０年度)
国際関係学部　令和元年度「ベーシックスタディ 1」受講者
デザイン：国際関係学部４年生　石村優亜

お問い合わせ：国際関係学部　宮崎晋生研究室
miyazaki@u-shizuoka-ken.ac.jp

参考文献：渋沢栄一『雨夜譚』、『静岡県史』、佐々木聡「渋沢栄一と静岡」『静岡の文化』No.56

ご協力：渋沢栄一記念財団 渋沢史料館

複製、頒布、展示、実演を行うにあたり著作権者の表示を要求し、非営利目的での利用に限定し、いかなる改変も禁止します。

静岡県立大学　文部科学省 地(知)の拠点

UNIVERSITY OF SHIZUOKA